Series of the Ticket
シリーズ・ザ・チケット

裏CUBED

裏デバッグ

108

Series of the Ticket
シリーズ・ザ・チケット

裏DEBUG

裏デバッグ

108

あなたが願望を得た

あなたは不正プログラムを掻き分けて進む

行動という万能の武器を備えて

頼りになる強力なパートナーは理性だ

そして気が付けばあなたはそれを実現している

デバッグなしでだ

はじめに

ＤＥＢＵＧ（デバッグ）の進捗状況はいかがでしょうか？

日常の中で「不正コードの影響を受けていない実像」、つまり充足を経験することができるようになってきたでしょうか？

「主よ、あなたにとっての最良をお与えください」

こうリクエストすることで、今までは到底考慮することのできなかった（あなたにとっては分不相応だと定義されていた）無限大の利益に与ることが、少しずつでもできるようになってきたでしょうか？

イエスの人もいればノーの人もいるでしょう。

「イエス！」という人でも、不足という経験を人生から全て抹消できているわけではないかもしれません。このとき、あなたは依然として従来どおりの不正コー

ドを反映した現実に留まり続けているように思えるでしょう。

しかしそれでも、あなたが「無限大の利益を自らに考慮できるようになってきた」ということは大いなる前進です。

またバグとしてのあなたによる概念化の及ばない領域、すなわち実像を意識して「それに触れたい」という意欲を持てるようになってきたことも、大変価値のあることです。

そしてなによりも、それによってあなたの経験が少しずつでも充足を感じる方向へと変化しているということ、これこそが非常に重大な意味を持っています。

これは、本来なんの制約も受けず、無限大の利益に与ることが当然の権利である「本当のあなた」へと、立ち位置が変化してきているということです。

あなたの気の持ち方一つで、です。

そして、たとえ未だ不正プログラム上に留まり続けているように思えたとしても、主に対して、つまり自らの概念化の及ばない領域に対してリクエストし続けてください。

…さて、「ノー！」と答えたあなた。

この本はあなたのために書かれました。

あなたは、

「私だって『イエス！』と答えた人と同じようにやっている。にも関わらず全く充足が見えてこないんだ！」

と言うかもしれません。
確かにあなたは同じようにやろうとしているのでしょう。

しかし「同じようにやっているのも関わらず結果が異なる」ということは、どこかやり方が間違っているのです。
本人は「全く同じようにやっている」と思っていても、実際に行われていることは全然違っていたりします。

デバッグで提示したものは「心の在り方」「意識の置き方」といった「内面で行うこと」なので、本当に「同じように」やっているかどうかは、比較して調べることが非常に困難な領域なのです。

それに、これは本来「同じように」という画一的なアプローチで実践すべき分野ではありません。人の内面というのは多種多様な信念・観念が複雑に絡み合っ

て入り組んでおり、マニュアル化された一つのやり方を適用すればうまく行く、というような単純な世界ではないからです。

さらに言うと、デバッグは「やる」のではなく、むしろ「やらない」というアプローチです。

どう「やるか」ならまだしも、どう「やらないか」。

まるで雲を掴むような話です。

従来の方法論と全く異なる方向性のアプローチなので、要領を掴みにくいというのは多くの人にとってある意味当然であるとも言えます。

あなたは上手くやろうとして、このやり方をマニュアル化しようとします。いつでも再現可能な技術として習得しようとするわけです。不正プログラム上では

「何らかの効果的な取り組みをすることで成果を得ることができる」という絶対的な条件付けがあるためです。

しかし従来の方法論を如何に駆使しようとも、結局は「やればやるほど却って目標から遠ざかる」という不正プログラム上のメカニズムに乗っかって何かをしようとしていることにしかなりません。

デバッグの提案はこれら一切を放棄することでした。

結局のところ不具合しか起こしていない不正プログラムを利用して何かするのではなく、それらを一切放棄してその外側、すなわち正常な状態をずっと維持し続けている完全なる不動のプログラムに目を向け、それに対して正常なコードの実行を依頼しようということです。

あなたの概念化が及ばない領域に対してです。

そしてそれを象徴するのが「主よ、あなたにとっての最良をお与えください」という極めてシンプルな形でのリクエストなのです。

このリクエストにはバグの作用する余地が一切含まれていません。いわば完璧なリクエストなのです。

したがって、あなたが未だ現実的な成果を何ら得られていないと感じていたとしても、その意味を理解したうえでリクエストし続ける、という姿勢が極めて重要なのです。

さて、ここまで述べてきたことはデバッグの正当なアプローチです。

あなたには是非これを実行して成果を得て頂きたいわけですが、このアプローチがどうしても口に合わない、という人もいるでしょう。

実像の充足が素晴らしいことは理解できたが、バグを放棄して実像を求めるということがどうしても出来ない。こういう方も少なからずいらっしゃることと思います。

とくに、先ほどの質問に対して「ノー！」と答えた方はその傾向が強いのではないでしょうか。

手放したつもりが手放せていない。
全託したつもりが未だ執着し続けている。

どうしてもそうなってしまう。私には不正プログラムの解除も充足を感じることも、どうしたって不可能なのではないか‐。

そんなあなたにとって、この本はまさに福音となるでしょう。

あなたがもし「私にはデバッグのやり方がどうしても上手くできない」という

なら、これから紹介する方法は逆にそういう人にこそ効果があります。

またデバッグで一定の成果をあげている人にとっても、この本は大いに役に立つはずです。むしろそういった人の方が、実は得られる気づきは大きいものかもしれません。

あなたが未だ不正プログラム上にいると感じているなら（あなたが現在どのような状況にいようが）これからご紹介する方法は、あなたにとって非常に大きな意味を持ってきます。

これからご説明する方法が「デバッグと矛盾している」と感じる方もいらっしゃるでしょう。ちょっと目には不正プログラムを却って強化しているように思えるだろうからです。

こういった一見すると矛盾点に思える部分についても、本編でご説明していき

ます。

なぜそれが必要であるかについても。

それでは「裏デバッグ」スタートです。

裏デバッグ　インデックス

はじめに　1

プロローグ　21

第一章　再デバッグ　33

デバッグリプライズ　35

デバッグが実行されない訳　42

概念化の罠　44

相対化の罠　48

デバッグの鍵　51

第二章　**抜け道**　59

全力での経験　64

第三章　**願望設定**　71

重要なステップ　72
意欲　73
現実的対処法　77
魂のベールを剥がす　86
魂のリクエストに応える　94
願望のコーディネート　105
願望との出逢い　114

願望という名のフィーリング　118
行動による輪郭化　122
ビジョンとして来る願望　129

第四章　実現プロセス　135

願望の実現プロセス　136
赤ちゃんはなぜ歩けるようになるのか　139
失敗という属性　143
置き換わった目標　149
不正コードを越えて　153
まとめ　156

第五章　意図　161

意図の本質　162
意図とプロセス　164
不正プログラム上での願望実現　167
捏造された差分　171
前提が生成するプロセス　176
意図を保持する　178
消滅する属性　180
結果から引かれた直線　184
差分を捨て去る　187

第六章　全力での経験　193
判定という罠　195
疑似体験の放棄　203
限りなき利点　207
願望設定の重要性　211
全力で経験するコツ　214
第七章　理性　221
置換された経験　223
諸刃の剣　228
真相の暴かれる瞬間　231

存在しない世界　235
信念という物理世界　241
信念の利用法　245

第八章　**問題解決**　251

問題発生のメカニズム　252
問題の正体　257
リクエストに応える意味　265

第九章　**信念の解除**　271

願望実現を妨げるラスボス　272
消えていく信念　273

骨抜きの信念　282
エピローグ　289
あとがき　295

プロローグ

「裏デバッグ」へようこそ。

この本でご紹介するのは、文字通りデバッグの「裏ルート」のようなものだ。

デバッグでご紹介した方法は、誰もが簡単に「実像の充足」を経験できる秘訣のようなものだった。

そのために「（あると思っているが実際にはない）自分の力」というものを活用する必要が一切無い。

むしろそういったものは邪魔になる。デバッグで必要なことは単なるリクエストだ。

「主よ、あなたにとっての最良をお与えください」

これは完全なるもの（領域）に対して「完全なる充足を開示してくれ」と頼んでいるようなものだ。

デバッグを端的に言い表すとこれだけのことだ。

それ以上でも以下でもない。

しかしこれほど簡単であるにも関わらず、あなたは「難しい」と言う。

それもそのはず、このリクエストはバグとしてのあなたにとっては到底承伏しかねる内容だからだ。その理由についてはデバッグでご説明したとおりだ。

このリクエストが正しく行えるかどうかは、あなたがあなたの意志で「バグとしてのあなた」という立場を放棄できるかどうかにかかっている。

このリクエストがあなたに要求しているのは、ただこの一点のみなのだ。

しかし、この単なる「一点のみ」が、バグとしてのあなたにとっては途方もなく恐ろしい。

それはそうだ。「バグとしてのあなたを放棄し、完全なるものに全ての権限を明け渡せ」とは、バグにとっては死刑宣告に等しい。ここまで培ってきた価値観や権威や権利や自信などを、全て「洗い浚いドブに捨て去れ」と言われているに等しいからだ。

しかしあなたがその決断をすれば、その向こうに広がっているのは無限大の充足だ。このリクエストは、それを経験するために「ほんの僅かな、極めて細い境界線を踏み越える」といったようなことに過ぎない。

これは単なる一歩だし、事実それだけの意味しかないのだ。にも関わらず、バ

グにとっては極めて重大な決断を迫られているように感じる。

だが、これは構造上仕方のないことだ。あなたがバグとして考えている以上、いつまでたってもこの決断は保留され続けるだろう。

あなたがバグとしての立場を頑として握りしめ、どうしても放棄できないと言っている限り、このリクエストを行うことは確かに難しい。

そして、正直そこまで待っていられない。

「デバッグ前のどの地点であっても、あなたが不足を経験する必要は一切無い」

デバッグでこのように書いた。

「バグとしての立場と視点とを思い切って放棄し、主へのリクエストを実行出来

ない限り、あなたは充足を経験する権利がない」

とは書かなかった。

事実そんなことはない。

しかし「主へのリクエストが実行できないといけない」と考えている限り、バグお得意の「相対化」の罠にまんまと嵌ってしまうことになる。

これでは主へのリクエストが新たな条件付けになっているだけだ。現在そのような状態に陥っている人も案外いるのでは無かろうか。

バグの常套手段は「条件下」であり「相対化」だ。

これによって本来無条件で完全なる充足は、条件付きの不完全な不足へと姿を変える。

しかし実際には、実像は完全なる充足だ。

つまり実像はあなたに対してなんの条件も要求してはいないということなのだ。

まずはこのことを念頭に置いて頂きたい。

さて「裏デバッグ」とはデバッグの裏ルートのようなものだと冒頭で述べた。

裏ルートとは正規のルートとは違うという意味だ。

正規のルートとは、端的に言えば主へのリクエストのことだ。

裏ルートは当然のことながらこれとは別のものだということになる。

つまり「あなたは主へのリクエストが出来なくたって構わない」ということだ。

あなたにとって実行に時間がかかる上に、出来るかどうか分からないようなことに関わっていなくてもいい。ルートは一つではない。

しかもここでご紹介する方法は、あなたになんの変更も要求しない。
あなたは今のままで良いのだ。
特別な技術や認識の変更も必要としていない。

しかもやり方は今まであなたが慣れ親しんできた方法だ。
つまり不正プログラム内で不正コードをそのまま利用するやり方だ。

さて、ここまで読んできたあなたは、いささか混乱しているかもしれない。
デバッグであれほど不正プログラムを放棄すべきだと繰り返していたのに、今度は不正プログラムを利用しろ、と来たもんだ。
手のひら返しも甚だしい。二枚舌も大概にしろ、と感じている人もいるだろう。
それが本当ならデバッグとは一体なんだったのか。そう不信感を抱く人もいるかもしれない。

しかしこれからご説明する方法は、実はデバッグと何ら矛盾していない。**それどころか、そのヒントについては既にデバッグにおいて述べられているのだ。**

デバッグと矛盾しているように見えて、ちゃんとデバッグと同じく完全な充足に行き着くようになっている。

しかもそのためになんの変更もあなたに要求していない。それは今までどおり、バグとしてのあなたで実行できるものだ。

だからこそ「裏ルート」なのだ。あなたがどうしても放棄できない「バグとしてのあなた」をフル活用することで、それは可能になる。

これはある意味「バグの逆襲」だ。

「これは充足を経験する為には邪魔なのだ」とあなたの中で概念化されかけている「バグとしてのあなた」が充足、すなわち実像を経験する為の秘密兵器として八面六臂の大活躍をすることになる。

まるで「ターミネーター」を観たあとに「ターミネーター2」を観るような気分だろう。前作で敵であった登場人物が、今度は最強の味方として主人公を助ける役どころになる。

デバッグを読んでバグを敵だと見なし始めていたあなたにとって、これは目から鱗が落ちるような体験に違いない。

そしてあなたは、自分がまたしても条件付けの罠に嵌っていたことにも気付き、視界がぐっと開けることになる。

いずれにしても、あなたにとって利益をもたらすことは間違いない。

細工は流々、仕上げを御覧じろだ。

裏DEBUG
裏デバッグ

2011年7月28日　初版第1刷発行

著者　108
発行　インテグレイテッド・インフォ

©108
All rights reserved

本書は著作権法によって保護されています。
本書の内容を無断で転載、記載することは禁じます。
本書を無断で譲渡・転売することを禁じます。